

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	地域自治組織運営事業	会計	一般会計	事業No.	8	施策順No.	72-004
		事業種別	政策・その他	予算科目	2-1-5-10-1		
政策	7 自立・連携した地域づくり			課等名	地域づくり・庶務課		
施策	72 自立に向けた住民組織力の向上			事業期間	開始	19	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	地域自治組織(地域協議会・まちづくり委員会)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		地域協議会数	20	20	20	20	20	
	意図	①市民に身近な事務事業に対する市民の意見反映 ②地域自治にかかわる情報交換や課題解決						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	地域協議会の開催回数	66	61	46	60	61	60	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	地域協議会制度が充足して4年が経過し役割が認識されてきたが、引き続き地域協議会活用の観点からまちづくり委員会との検討をしていく。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	1 地域協議会の委員に係わる全般的な庶務 2 まちづくり委員会連絡会議及び研修・学習会の開催		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 地域協議会の全般的な庶務 2 まちづくり委員会連絡会議の開催 3 22年度に実施予定のアンケート調査結果等をもとに、未加入問題に関する検討を行う。	1 会議数 2 会議数 3 会議数	1 61回 2 5回 3 17回
23年度実施計画	1 地域協議会の全般的な庶務 2 まちづくり委員会連絡会議の開催 3 各地区の情報交換や、共通課題への対応のため、事例発表会、研修会等を開催する。 4 地域協議会の役割について説明する。	1 会議数 2 会議数 3 参加者数 4 開催数	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)			特定財源内訳、補足事項
		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	
	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他				
	一般財源	816	633	712	
	計(A)	816	633	712	
	正規職員所要時間		150		
	臨時職員等所要時間				
	人件費計(B)		536		
	トータルコスト A+B		1,169		

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> 市役所に配置されている、旧市5地区の自治振興センター長を各地区に配置する検討が必要である。 地域の自治組織が、地域の主体性を持って運営されるように、地域自治組織の導入への取り組みの検証と現状認識をすべく取り組みを早急に行われたい。 20地区の連絡協議会について、単に行政連絡が行われるだけの場ではなく、情報交換や共通課題について議論する場として機能させることが必要である。また「連絡会議」という名称も再検討願いたい。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	住民組織が自分たちの地域のことを地域で考え、地域で活動することによって、役割を果たせる組織となること。	施策の成果指標又はムトス指標	自主的な地域づくりの参加人数(まちづくり委員会主催による活動)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	新たな地域自治組織はまだ短期間の取組ではあるが、住民自治を拡充し協働を推進する目的から見れば、地域においては徐々に定着しつつありその成果も現われている。		
	後期に向けた課題	平成22年度に地域とまとめた地域自治組織運営上の改善に基づき進める。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	住民・市議会・行政がこれまでの検証を行い、改善点を検討した。		
	後期に向けた課題	平成22年度に地域とまとめた地域自治組織運営上の改善に基づき進める。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題	地域協議会の計画的な開催により効率的な運営を行う。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①主体は地域住民であり、地域課題解決に向けた役割を果たしている。 ②地域住民で構成する自治活動組織が活発に運営できるよう働きかけやしくみの改善を行った。		
	後期に向けた課題	まちづくり委員会や地域協議会委員の多くが改選れたことから、地域自治組織のしくみについて理解を深めてもらう。		
全体を通じて	4年間の振り返り	新たな地域自治組織はまだ短期間の取組ではあるが、住民自治を拡充し協働を推進する目的から見れば、地域においては徐々に定着しつつありその成果も現われている。		
	後期に向けた課題	平成22年度に地域とまとめた地域自治組織運営上の改善に基づき進める。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------